



さあ冬休みです

長かった二学期も今日で終了です。明日からは、一月六日までの冬休みに入ります。冬休みは年末年始をはさむので、大人にとっても子供にとっても通常の長期休暇とは気持ちの異なるようです。年末年始の特別な行事を大事にしなが、有意義な時間を過ごしたいものです。

大晦日は、一年の「締め切り」とも言えます。毎月の末日を「晦日（みそか）」と呼びますが、その中でも一年の末日なので「大・晦日」となるわけです。

大晦日は、特別な日です。一年間の締めくりです。一年間の「締めくり」（期限）という言い方をすると小さい子にも意味が通じるのではありませんでしょうか。

人間は、何か節目を持つことで生活リズムや規律が生まれます。毎日をガラガラと過ごすのではなく、節目に向かって生活すること、生活に力が出て、力がついていくのです。そういう節目の一つが大晦日です。

1年間の「締めくり」です

昔から「一年の計は元旦にあり」と言います。大晦日を一つの締めくりとして、新しいスタートをする元旦。世の中の騒々しさに流されることなく、けじめのある生活をするためにも、今年一年を振り返ることや新しい年に希望を抱くことを家族で進めていたただけたら、充実した冬休みになるのではないのでしょうか。

短い期間ですが、家の手伝いも積極的にさせてください。その中で、親子のコミュニケーションが進むと思います。健やかに越年されますようにお願いします。

今年の漢字は「偽」

その年を漢字一文字で表す年末恒例の「今年の漢字」（日本漢字能力検定協会主催）が十二日、「偽」と発表されました。食肉や菓子などの食品、政治活動費や官庁の裏金など政治で相次いで「偽」が発覚したことが印象に残ったようです。

応募総数は九万八千六百通で、一位の「偽」はそのうち一万六千六百〇票と、二四四票の「食」でした。老舗和菓子の消費期限偽装や牛肉の偽装など、最も身近な「食べ物」を信頼できなくなつた影響でしょう。皮肉にも一位と二位を合わせると「食」品の「偽」装ということになりました。

三位以下を見ると嘘・疑・謝・変・政・乱・暑・心・辞・生・金・愛・辛・暑・二学期は様々な行事がありました。その場面その場面でどの学年の子も本当によく努力し、力を伸ばしました。

暑期中取り組んだ運動会初めの一年生も力いっぱい演技、競技をしました。高学年は係活動、応援リーダーと全校の為にためによく動いてくれました。教員研修の中でお互いに授業を公開しあう研究授業を行いました。

輝くふぞくの子の姿がいっぱい

学校説明会を四回開催しました。高学年は来校者案内など「学校の顔」としてよく動いてくれました。大人の参加者のみではなく、真・温・笑・竜と続きます。上位は「イナスイメージ」の漢字ばかりです。十三年は「信」がよかったです。前向きさを感じます。今年一年はそれだけ暗い出来事が多かつたというところででしょうか。

「笑」「真」「幸」「愛」。順位を下位から逆転させてみてみると、そこには来年への明るい希望がこめられてるようにも思えます。

附属小学校にとつて今年、校舎新築の年であり、新しいスタートをした年です。

二学期編成への移行も含め、今後ますます充実・飛躍したいところです。来年もご協力、よろしくお願いします。

園児への対応にも、気配りの気持ちや優しさがあふれていました。

社会見学で校外へ出た低学年。駅できちんと挨拶を動したり、マナーを守つて学び方にも目をみはる点がありました。

毎日の掃除の手際がよくなり、手早く受け持ちの場所をきれいにすることができるようになりました。

学校の教育目標である「強い子 賢い子 優しい子」の姿が校内にあふれています。ご家庭でのお子さんの姿の中からもそういう成長の姿を取り上げ、認めてあげてください。

成長の認めがたいは、次への課題も明確になり、更に成長していけるのだと考えます。新しい年も輝く姿を探していきます。

【未来につなぐ心の糧】大賞受賞

岐阜県本巣郡北方町主催、文化庁・岐阜県・岐阜県教育委員会・NHK岐阜放送局後援の「未来につなぐ心の糧」作品募集に応募した六年宮本一路さんの作文が最高賞の大賞に選ばれました。

今年のテーマは「出会い」。年末年始、家族が集まる時間に、心が癒され、元気や勇気をもらい、明日の希望や生き甲斐につながつた「出会い」を話題にしてみませんか。どんな出来事でも宝物として大切にしたいです。

かけがえない命
六年 宮本一路

ぼくは、出会いが好きだ。いろいろな場所を知り合い、元気や勇気をもらつことが楽しみひひと新鮮な気持ちに長れる。

昨年夏、祖母が入院し、一ヶ月間毎日病院に通つたぼくは、多くの人と出会い、いろいろな経験をしました。それぞれ違う立場の人達だったが、その出会いで、初めて生きることの意味を深く考えさせられ、健康な自分がどれほど幸せか、命の大切さを改めて知つた。

ある日、談話室で出会つた入院中の人が、

「人間健康が一番、命はお金では買えないから、毎日感謝して一生けん命がんばつてよ。健康こそ命の宝物なんだよ。」

と、ぼくに真剣に話してくれた。今の生活が当たり前のぼくは、ドキとして何か自分ができることはないかと考えた。そして、人を思いやる気持ち、ちたひとつのかけがえない命を少しでも守る手助けをしようと決心した。

そしてその日から、車椅子をおしたり、ドアの開閉をしたり、「ミニ倉庫」までできる限りの手伝いをした。そのうちに、周りの人の「ありがと」の言葉に支えられ、人の為に尽くす大きな喜びも感じるようになり、ますます張りきつた。その上、ぼくの手を握り、

「毎日、なす君の笑顔を見ると元気が出るよ。」

と言われた時は、とてもうれしく、みんなと心がひとつになつた満足感でいっぱいになり、感動した。

祖母の入院は、悲しい出来事だったが、その一ヶ月間の出会いは、ぼくに一つ一生忘れられない大切な思い出となり、貴重な体験となった。

人は、お互い、家族や出会つた周りの温かい支えがあつて健康な生活ができ、二匹にもなれる。そんな感謝の気持ちを忘れずに生きていけば、きっと幸せになれると思う。そのために、ぼくはこれからの出会いを楽しみに、そして大切にしていきたい。

また、出会いの中で、人々が助け合い励ましあえる、安らぎの世界ができれば、最高だ。